熊本大学文学部
国語国文学会報

環

第四十四号

二〇一八年一〇月発行

研究室だより
――熊本地震の報告を兼ねて

坂元昌樹

第五高等学校出身の物理学者・文学者の寺田寅彦（一八七八―一九三五）による人口に膾炙した警句の一つに、「天災は忘れた頃にやって来る（天災は忘れられたる頃来る）」があることはよく知られています。二〇一六年四月に突然発生した熊本地震の経験を通して、熊本に在住する私たちは、この寺田寅彦の言葉をあらためて痛感することとなりました。熊本地域は現在もこの地震の被害からの復興の途上にありますが、本学キャンパスもまた、熊本地震から少なからぬ影響を受け続けております。熊本大学のシンボルである赤煉瓦の第五高等学校校舎（現・五高記念館）も地震の大きな被害を受けて耐震改修工事のために現在も閉鎖中であるなど、熊本地震の爪痕は現在も様々な形で残っております。熊本地震に際しての文学部日本語日本文学研究室の状況につきまして、研究室近況のお知らせも兼ねて、以下にご報告いたします。

熊本地震における二〇一六年四月十四日の予震とその二日後の十六日の本震に際して、日本語日本文学研究室に関係する文学部および大学院社会文化科学研究科の在学生につきましては、地震被害が大きかった熊本県内の地域に自宅があった学生も含めて、いずれもまことに幸いなことに、深刻な負傷等の被害を受けた学生はおりませんでした。ただし、地震の本震以後にも長く余震が続き、地域のライフラインを含めた日常生活の基本的環境が回復しない中で、本学全学の授業も一ヶ月近く中断となり、自宅外通学の学生を中心として、在学生の多くの皆さんが、大きな不安を伴いながらきわめて不自由な日常を過ごすこととなりました。

一方、本学法文棟（法学部・文学部棟）の多くの研究室においては、予震・本震の際の強い衝撃によって様々な設備や備品類が大きく損壊するという被害を生じました。各研究室内の壁面に固定していたはずの大型書架が多数倒壊した結果、室内への出入りそのものにも支障を来たすこととなった教員研究室や学生研究室も少なくなく、その後の復旧に向けての作業においても様々な困難を生じることとなりました。日本語日本文学研究室の学生研究室や教員研究室につい

ては、研究室の大型書架は幸いに倒壊を免れたものの、各書架に配架されていた研究室蔵書の大部分が落下し、多くの貴重な図書類が汚損するとともに、研究室の床面に大きく散乱した書籍や備品等のために、室内においては、文字通り足の踏み場もないような状況に陥りました。写真は、熊本地震の本震の翌日に、日本語日本文学研究室の室内の状況を撮影したものです。

熊本地震直後から、日本語日本文学研究室所蔵の図書や備品類の整備については、研究室の教員間で相談を行い、計画的に進めていくこととなりました。特に図書類については、研究室書架の壁面への固定が不安定になっている可能性があることと、大きな余震が引き続いて発生する中で、落下した書籍を書架に元どおりに配架しても再び落下する可能性が高いことから、書架上段のスペースは使用せずに中段以下のみを使用することとして、書架上段の図書については既に落下した書籍とともに、研究室床面に集中保管することとしました。書架中段以下の図書についても、地震時の落下や飛び出しを避けるため、ストッパー用のロープを多数めぐらせた状態での配架を行うこととなりました。研究室備品についても、地震の揺れによる損壊や散乱が生じないように整理を行いました。それらの作業を、既に汚損した図書への対応を含めて、貴重な蔵書や備品類をこれ以上損なうことがないように注意を払いながら、長く余震が続く中で、日本語日本文学研究室の教員を中心に協力して進めていきました。

日本語日本文学研究室の在学生の皆さんはもちろん、卒業生・修了生の方々を含めた本研究室を訪問される方々にとっても、研究室所蔵の貴重図書や備品類を自由に活用可能できる環境は、きわめて重要なものです。しかし、研究室訪問に際して大きな不便を伴うこのような利用環境を、熊本地震以降、一定期間余儀なくされることとなりました。長い余震が続く中、本研究室を利用中に余震の揺れの衝撃で書架の図書が突然落下するなど、ひやりとするような機会もありました。

しかし、その後、地震から半年ほどを経て、図書や備品使用を含めた研究室の利用環境は、次第に従前のあり方へと戻していくことが可能となりました。熊本地震から二年を経た現在は、以前のように、自由に研究室を利用可能な環境が整備されております。今回の熊本地震を契機として、防災上の対策を考慮しながら、図書や備品管理のあり方も含めた日本語日本文学研究室のよりよい環境整備を進めていきたいと考えております。卒業生・修了生の皆様方、もし本学へご来訪の機会がございましたら、日本語日本文学研究室にもお立ち寄りいただき、地震後に新しくなった研究室の利用環境を含めてご覧いただいて、ご感想やご意見などをお寄せいただければ幸いです。

（本学教員）